

## 成果の説明書

(氏名) 黒崎龍悟	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>&lt;研究&gt;</p> <p>科研費・若手 B「農民グループ・ネットワークをとおしたイノベーション普及に関する実証的研究」(代表) および科研費・基盤 A「アフリカ農村における技術の内部化プロセスの解明と循環型資源利用モデルの構築」(分担) がともに最終年度となったが、新型コロナウイルス拡大の影響で現地調査の一部を実施することができなかった。現在までの調査内容でそれぞれのまとめとなる論文作成を進めている。今年度の関連する研究成果は以下のものである。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 出版物<ul style="list-style-type: none"><li>• 黒崎龍悟 (2019)「自然エネルギーの使い道—福岡県京都郡における地域活性化事業と水車—」『生態人類学会ニュースレター』25:71-74.</li></ul></li><li>• 研究報告<ul style="list-style-type: none"><li>• 黒崎龍悟 (2019)「タンザニアにおける小型水力発電の歩み」民族自然誌研究会・第 95 回例会『農村における水力活用の歩みと展望』(7月20日於京都大学)</li></ul></li></ul> <p>&lt;教育&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 講義形式の授業で取り入れているコンパクトなワークの課題の洗い出しが検討課題であった。受講者間のワークへ参加の濃淡を解消するために、グルーピングや課題の提示の仕方に工夫の余地があることが考えられたため、次年度以降に生かしていく。</li><li>• フィールドワークで得られた最新の成果を取り入れて、授業内容を更新することに努めた。</li><li>• ゼミでは3年生の希望者6名を対象にして、夏休みにタンザニアへのスタディツアーを実施した。農村地域の生活の実態や、気候変動・グローバル経済がもたらす影響などについて学んでもらう機会となった。</li></ul> <p>&lt;社会貢献&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 本学図書館にて異文化理解のための写真展「アフリカから老いの力を見る—シニア世代の多様な生き様」の開催(2019年5月13日-5月24日)。共催: 特定 NPO 法人アフリックアフリカ、協力: 中澤芽衣(地域政策学部特命助教)</li><li>• 高崎経済大学地域科学研究所 公開講座「東アフリカ、技術協力の最前線—有用な技術がなぜ普及しないのか?—」(2019年11月17日)</li></ul>	
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 学内業務では国際交流委員として関連業務に携わった。また、業務の一環として短期語学提携校であるオーストラリア・ラトロブ大学への視察を担当した。</li><li>• 学内学会組織である経済学会の理事を担当した。学会運営に携わるとともに、新入生に配布する経済学部を紹介する小冊子「INTRO」の編集作業を担当した。</li></ul>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p>	

- 科研のまとめとなる論文を仕上げるとともに、2020年度から新たな科研（分担）が2つスタートするので、これまでの成果を生かしながら新しい研究に着手していく。
- 国際学科がスタートして4年目になり、ゼミ1期生が卒論作成に取り組むことになる。良い成果が得られるよう、学生個々の状況に応じて柔軟にサポートしながら議論を深めていきたい。